

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

雑司が谷駅(副都心線)に遺跡解説板が登場!



解説板の設置に喜ぶ、高木調査員。
設置は苦難の連続(?)でした。詳しくは次頁で。

雑司が谷遺跡^{おえしき}は御会式で有名な日蓮宗法明寺と鬼子母神堂を中心とした遺跡で、雑司が谷3丁目の一帯に広がっています。昨年開通した副都心線の雑司が谷駅建設にともなって一部が発掘調査されましたが、このたび、東京メトロのご好意によって、駅構内に遺跡解説板を設置することができました。ここでは、解説板がどのようにして作られたのか、ご紹介しましょう。

解説板のベースとなったのは、調査の最後に

飛行機によって空から撮影した、掘りあがり状態の写真です。この遺跡は、全体を一度に調査したのではなく、モザイクのような小区に分けてバラバラに調査したため、小さな写真を合成して一枚の大きな写真にしました。発掘された遺構は全部で3,500余り。その中でも、注目されるものについて解説しました。遺跡周辺の地図や、御会式にぎわう鬼子母神の様子を描いた版画なども盛り込み、背景をデザイン。色もいろいろな組み合わせ

～ 解説板設置までの道のり ～

in 雑司が谷駅



パネルが入らない！ なぜ？？

せを試して、若草色を主体に、赤や群青などをアクセントにすることにしました。こういった作業はコンピュータを使う高度な技術を必要とするので、通常は展示専門業者をお願いするのですが、今回はプリント以外のほとんどすべてをとしま調査会でやりました。できあがった解説板は薄板状で扱いやすいので設置も自分たちで行いました。

雑司が谷駅を通るときは、ぜひ足を止めてみてください。知られざる雑司が谷遺跡を見ることができます。(両角まり)



アクシデント発生！ サイズが合わず、その場で切ること...



気を取り直して、再びチャレンジ！



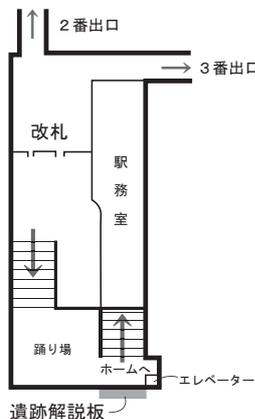
完成！！ 駅長さんも大喜び！

遺跡解説板見学会を開催 ～ 副都心線に乗って江戸時代へ ～



見学者を前に、思わず説明にも力が入ります

2009年早春に設置された遺跡解説板のお披露目を兼ねて、3月21日(土)に見学会が催されました。解説板は東京メトロ副都心線の雑司が谷駅構内にありますが、場所は人通りの多い通路にあることから、少人数限定の会となりました。当日は天候にも恵まれて、付近を散策するには絶好の日和。解説板で雑司が谷遺跡の説明をひとしきり聞いたあとは、目白通りを渡って鎌倉街道と言われる宿坂にも寄りました。また発掘された中世の道の上に立ってみて、今の道と比べてみたり、大鳥神社やこれまで調査した江戸時代の遺跡の説明などを聞きながら、鬼子母神堂へと到着。ここでちょうどお昼となり、解散の時間となりました。今回は約2時間のコースでしたが、あっという間に終わってしまいました。今後もこのような会を企画していきますので、お楽しみに！ (小川祐司)



解説板の位置(雑司が谷駅 目白通り側改札)



鎌倉街道と言われる宿坂(神田川方向を望む)



今回は鬼子母神堂にて解散です

”社会貢献活動見本市”に出展しました

2009年2月28日（土）に豊島区勤労福祉会館にて開催された『第3回社会貢献活動見本市』に出展しました。この見本市は、豊島区及び周辺地域で活動するNPO法人やボランティア団体、企業が、まちづくり・文化・教育・環境などの地域社会の問題を市民力で解決を目指し、日々の活動成果を発表する場です。このたびの出展団体数は44団体にもものぼり、各団体とも非常に手の込んだ展示を行い、加えて500人を超す来場者数で大いに盛り上がりました。

私たちのブースでは今年度行なった遺跡の発掘体験や、古墳時代の住居の新発見速報などを写真をたくさん使ってパネルにし、気持ちを含めた力作を展示しました。また、「巣鴨町を掘る」や「つたのは通信」、毎年恒例のロビー展示のリーフレットなどのNPO刊行物も紹介しました。これが多くの方の興味を惹き、来場者や出展団体の方々からたくさんのご質問を頂きました。一つ一つ受け答えするには苦勞しましたが、区民や地域の方々



前日は入念な下準備。今回は模造紙に手書きという、“夏休みの自由研究”をイメージして作りました

お話することで遺跡の大切さや面白さ、私たちの活動内容に興味をもっていただけたかと思えます。また、このような機会の折には、に多くの方と交流していきたいと思えます。

（高木翼郎）



熱心に見る見学者。多くの方が訪れました



「つたのは通信」や『巣鴨町を掘る』などNPO刊行物のほか、タウン誌『巣鴨百選』への掲載記事も紹介しました

待望の巣鴨町 (第2分冊)・北大塚 が刊行

2009年3月末に2冊の報告書が刊行されます。ひとつは考古学的な成果に文献調査や科学分析など加え、巣鴨町の鍛冶屋について多角的に検討した『巣鴨町Ⅱ』（第1・2分冊）です。もうひとつは常陸国府中藩松平播磨守の下屋敷と抱屋敷に当たり、謎の墨書が記された土玉が出土した『北大塚Ⅱ』です。どちらも苦勞作ですので、ぜひご覧ください。



北大塚
で報告している
謎の「土玉」

書籍紹介

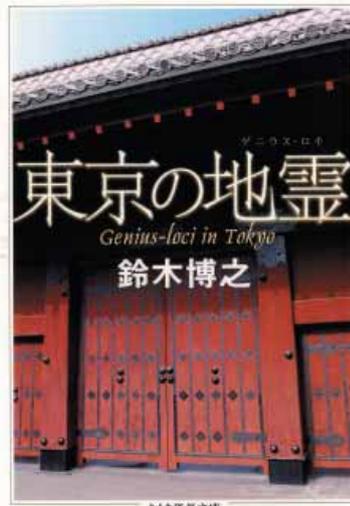


土地の歴史を読む、もうひとつの視点

ゲニウス・ロキ
鈴木博之 著 『東京の地霊』

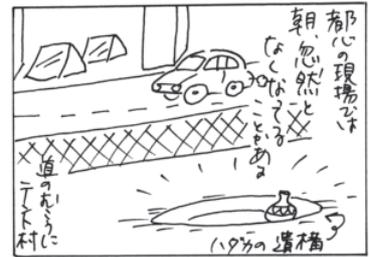
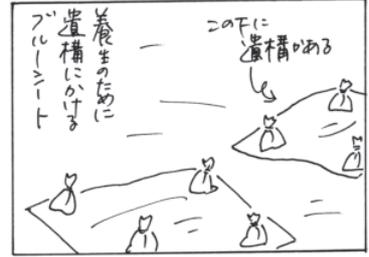
まずはじめに、本書は考古学の書籍ではない。そして最近の本でもなく、今から20年近くも前に書かれた良書である。「東京の地霊」という禍々しいタイトルだが、れっきとした建築学の先生が書かれている。本書は近世から近代、そして現代へと数奇な運命を辿った13の土地を取り上げ、その土地が持つイメージや力を「地霊」という言葉で表現し、歴史を叙述していく。ひとつ例を挙げてみると、港区の旧林野庁宿舎跡地は、明治から静寛院宮(和宮)邸となる。ご存じの通り和宮は、公武合体のために江戸におもむいたものの、すぐに明治維新となり、本人も若くして亡くなった。この後、敷地の主は同じ皇族の東久邇宮となるが、終戦処理に当たったこの首相は僅か50日間という短命内閣に終わってしまう。この「薄幸」こそが土地の持つ力＝「地霊」である、と著者は言う。戦後から現代にかけても、またひと波乱あるのだが、続きは本書を読んでいただきたい。また、解説は「建築探偵」藤森照信も書いている。こちらも面白いので、ぜひ読んでほしい。

私たちも日夜、発掘調査から土地の歴史を読み解こうとしている。これまでは気付かなかったが、実はどこかで「地霊」の横顔を見ているのかも知れない。(小川祐司)



鈴木博之著 2009年 ちくま学芸文庫
定価：1,100円＋税

がんばれ(毛)調査員



突発的に不定期連載が決定した「がんばれ(毛)調査員」。花粉症にも負けない、怪しく愉快な(毛)調査員を、ぜひ応援してください！

【編集後記】

先日、小学校内の調査に行ったところ、低学年の女の子に「ふしんしゃ～！」と指をさされ、少しショックです。これもご時世でしょうか？まだ「変なおじさん」と言われないうだけマシ？ (担当：(毛))

編集・発行

特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962 E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：http://www.toshima-iseki.org/

題字：湯澤和子 ロゴデザイン：石原幸